

CHUOH TRY+ANGLE

知っ得通信

2018年10月23日発行 編集・発行：中央教育研究所(株) 〒730-0013 広島市中区八丁堀15-6 <http://www.chuoh-kyouiku.co.jp>



中土井鉄信の「地域一番の繁盛塾になるための最強法則」

vol.80

<冬期講習の設計について>

読者の皆さん！冬期講習の企画は、出来ましたか。来年4月の在籍生を十分なものにするために、冬期講習は、ある種、在籍生確保の大切なイベントです。しっかりと企画を立てて、素晴らしい講習にしてください。

はじめに、冬期講習の企画の中で、一番大切な設計について考えます。

まず、冬期講習の設計の前提の確認です。冬期講習は、受験生にとっては、入試直前の重要な時期です。ですから、受験生に関しては、基本的に利便性を配慮する必要があります。受験生にとっては時間数確保が最優先になります。そして、塾に体力があるなら、年末年始は、特別感を利用して、受験意識を大幅に高める工夫＝正月特訓をやるかやらないかを決めます。

次に受験生以外ですが、これらの学年は、次学年に向けての準備なので、私が良く言う3要素をしっかりと頭に入れて設計することです。3要素とは、利便性と投資性と効果性です。この3要素に配慮して設計を考えてください。つまり、中学生1・2年の時間帯と小学生の非受験生の時間帯に配慮が必要だということです。特に中学生は、夏期講習ほどではないですが、部活動に対する配慮がある程度必要だということです。

それでは、実際の設計について考えます。考える軸は、2つです。

1. 横軸＝期間
2. 縦軸＝一日の時間

この2つを合わせて考えることです。つまり、この2つが、授業料や売上になるからです。

横軸×縦軸＝授業料
授業料×受講生数＝売上

旧来の学習塾は「学力至上主義（＝売上至上主義と同義）」なので、「長くやれば長くやるほどいいんだ！！」「講習は在籍生のためだ！！」と思って、冬休み中、講習を行っていましたが、それでは、私の言う「利便性」も「投資性」も実現しません。

講習というイベントを通して、私たちは、2つのことを考えていくわけです。1つは、在籍生の学力養成、もう1つは、新規生徒の獲得です。つまり、「講習は在籍生のため」という考え方と「一般生獲得のために講習がある！！」という考え方をしなければならぬのです。ですから、講習が終わると、在籍生が大幅に増えている、そういう状況になっていなければおかしいのです。

そのために、「利便性」と「投資性」と「効果性」を考慮に入れて、学年ごとに横軸と縦軸で、設計をします。

次に、冬期講習ですから、正月特訓とか年末カウントダウン特訓をどうするかを考えます。つまり、正月に特訓を組むためには、正月を挟む前後の期間にどう休みを入れるかということを考えるということです。生徒側からすれば、どのタイミングで区切りをつけて、特訓に臨むかということですし、職員からすれば、連続勤務では、身体が持たないということです。

例えば、12月25日～29日冬期講習前半、30日休校、31日～2日正月特訓、3日休校、4日～7日冬期講習後半というように考えるか、12月25日～30日が冬期講習前半、31日～3日休校、4日～7日冬期講習後半と考えるのかということです。

そして、時間帯ですが、集団指導の講習では、この時間帯が非常に重要です。ここは利便性を考慮します。例えば、小学生は夕方にクラスを設定するのは、禁物です。冬ですから、早く陽が落ちます。暗い夜道を一人で帰らせたくはないと保護者は思います。そういう配慮が必要なのです。中1・2生は、部活動があるので、部活動が終わって、遅刻しない時間帯を設定することがポイントです。

個別指導は、通常の時間が、1時限＝60分や50分になっている場合と80分とか90分になっている場合があると思いますが、もし、通常授業の時間単位が、60分や50分になっていれば、講習は、学校が休みの期間なので、1.5倍の量を時間単位にしてみてください。つまり、通常1時限＝60分なら、講習の時は、1時限＝90分というように。当然、講習料も1.5倍になるわけですが、しっかり提案をしていけば、学習量は覚悟できるはずですよ。



<冬期講習の設計について>

たとえば、60分を60時限提案するのと90分を40時限提案することを考えてみてください。金額は、同じです。しかし、受け止める印象は、どうでしょうか。「60時限も勉強をするのか？」となる可能性があるということです。そして、こういう印象になるかもしれません。「一日6時限以上勉強しなきゃならないのか！」と。40時限であれば、「1日4時限ちょっと勉強すればよいだけだから、頑張ろうよ！」と説得しやすいはず。実質的には、勉強時間は変わりませんが、受け取る印象の違いで、意外と大きな結果の差を生むのです。

また、個別指導は、稼働日と1日の稼働時間によって売上の最大値が決定されますから、何日間講習を行うのかを考えてください。それは、チラシに載る期間以外にも設定してよいものです。つまり、一般生（講習生）を集めるためには、チラシの講習期間は、学校が休みの期間として謳いますが、在籍生には、その限りではないということを知っていれば良いのです。

最後に、一般生（講習生）を講習に誘引するための特典について考えてみましょう。

集団指導の塾は、講習は、無料にして、同時入会で、1月分授業料無料などの特典が有効に機能するかもしれません。

個別指導の塾は、「入門講座」とか「初めて講座」という軽いもの（たとえば、算（数）2時限+国（英）2時限=4時時限10,000円）を設定して、同時入会で、「入門講座」や「初めて講座」が無料になり、加えて1月分授業料も無料にするというものです

お得感をどう表現するかが、大きなポイントです。

チラシを見た人が、子どもに、「損はないから、行ってみたら！」とか「塾に行くなら、今が良いわ」と言っている姿を想像しながら、特典を考えてみてください。

いかがでしょうか。冬期の設計ができれば、今度は、動員計画（在籍生を冬期に参加させる計画）と集客計画（一般生を冬期に誘引する計画）を作ってください。今からでも皆さんの塾の冬期講習を見直して、来年の在籍生数の寄与となる講習にしてください。

【編集後記】

MBA学習塾革新メンバー募集中！

マネジメント・ブレイン・アソシエイツが運営する「塾経営革新メンバー」制度では、毎月、会員の皆様に塾経営・教室運営に今すぐ役立つ情報・ツールを配信しています。

情報交換会や個別相談など、特典もたくさん用意しています。ぜひ、私たちと一緒に塾業界を盛り上げていきましょう！

▽くわしくはこちらから▽

https://management-brain.com/members_join

▽お問合せはコチラ▽

TEL 045-651-6922 Mail: mailadm@management-brain.co.jp

合資会社マネジメント・ブレイン・アソシエイツ
教育コンサルタント 中土井鉄信

CHUOH TEXT COLLECTION

学習塾専用テキスト・システム
冬期展示会



全国13会場にて学習塾様に向けて、学習塾専用テキスト・システム展示会を開催いたします。

冬期講習への準備・入試対策をサポートいたします。

●展示会場一覧				
開催地	日付	時間	会場	問合せ先
博多	10月22日	11:00~12:30	JR博多シティ会議室 10F 大会議室	九州オフィス
広島	10月23日	10:30~15:00	広島県立総合体育館(グリーンアリーナ) 地下1F 中会議室	中四国オフィス 082-227-3999
岡山	10月24日	10:30~15:00	岡山コンベンションセンター 407会議室	
福山	10月25日	10:30~15:00	エフピコRim 9F 福山市ものづくり交流館 スタジオA	
松山	10月26日	10:30~15:00	松山市総合コミュニティセンター 2F 第1・2会議室	
大阪	10月29日	10:00~14:00	新大阪ブリックビル 3F 会議室C+D	関西オフィス 06-6399-1400
姫路	10月30日	10:00~14:00	姫路商工会議所 本館 701会議室	
神戸	10月31日	10:00~14:00	神戸市産業振興センター 会議室902+903	
堺	11月1日	10:00~14:00	堺市産業振興センター コンベンションホール	
橿原	11月2日	10:00~14:00	かしはら万葉ホール 研修室2	東京オフィス 03-5283-5677
東京	11月6日	10:00~14:00	サンシャインシティ ワールドインポートマートビル 5F Room14	
神奈川	11月7日	10:00~14:00	パシフィコ横浜 414+415	
千葉	11月8日	10:00~14:00	モリシアホール 会議室	

数字でみる学習塾経営・業界のトレンド vol.44

大学入試センターが10月12日、2019年度センター試験の受付最終日17時現在の志願者数を発表しました。537,008人、前年度比8,685人の増加でした。受付は当日消印有効で、昨年の受付ではこれが54,348人でしたので、19年度も同程度はあるものと予想されます。

となると、12月上旬に発表される19年度の確定志願者数はおそらく592,000人前後。今年度の582,671人を10,000人近く上回ることになるでしょう。

今年の高3生と中等教育学校後期3年生とを合わせた生徒数は1,044,427人（本科全日制のみ）。昨年の1,048,610人から4,000人ほど減っています。

にもかかわらず、センター試験の志願者はほぼ間違いなく増加。20年度の大学入試改革を前にして、なにかが少し変わってきているのでしょうか。

ちなみに18年度のセンター試験志願者のうち、現役は473,570人、浪人および高認等は109,101人でした（現役81.3%、浪人等18.7%）

なにかが変わってきていると言えば、ここ数年、大都市圏の中・大規模私立大学の合格者数が激減しているのをご存知でしょうか。

以下は、読売新聞が報じた15年度と18年度の、主要な私立大学合格者数（一般入試）の比較です（9月27日付／一部著者編集）。

学校	15年春	18年春	増減数	増減比
日本	28,244	29,370	1,126	4.0%
明治	24,909	21,216	▲3,693	▲14.8%
東洋	24,433	21,504	▲2,929	▲12.0%
法政	19,549	17,548	▲2,001	▲10.2%
早稲田	18,281	14,532	▲3,749	▲20.5%
中央	16,633	15,198	▲1,435	▲8.6%
立教	13,198	10,452	▲2,746	▲20.8%
専修	10,871	8,437	▲2,434	▲22.4%
青山学院	10,085	7,313	▲2,772	▲27.5%
駒澤	10,034	8,550	▲1,484	▲14.8%
慶應義塾	9,545	8,817	▲728	▲7.6%
上智	6,309	5,085	▲1,224	▲19.4%
学習院	4,047	3,526	▲521	▲12.9%
立命館	30,848	24,995	▲5,853	▲19.0%
関西	19,160	16,026	▲3,134	▲16.4%
同志社	17,397	16,143	▲1,254	▲7.2%
関西学院	13,126	9,882	▲3,244	▲24.7%

合格者の数でみれば、3年の間に立命館の5,853人を筆頭に早稲田、明治、関西学院、関西、東洋、青山学院、立教の8大学が2,500人以上、率でみれば青山学院の27.5%を筆頭に関西学院、専修、立教、早稲田、上智、立命館、関西の8大学が15%以上、合格者を減らしています（日本大学だけは増えているが、これは学部増設などに伴う定員増のため）。

なぜこうしたことに…？

高校生を担当している皆さんでしたらご承知でしょう。発端は文科省と日本私立学校振興・共済財団が15年7月に私立の学校法人宛て発した「平成28年度以降の定員管理に係る私立大学等経常費補助金の取扱について」と題する通知にさかのぼります。

この通知の中で文科省と私学振興財団は、大学を定員8千人以上の大学、4千人以上の大学、4千人未満の大学の3種に分け、入学者数が以下の基準を上回った場合には補助金面でペナルティを課すと宣言したのです。

定員	8千人以上	4千～8千人	4千人未満
15年度まで	1.20倍以上	1.30倍以上	1.30倍以上
16年度まで	1.17倍以上	1.27倍以上	1.30倍以上
17年度まで	1.14倍以上	1.24倍以上	1.30倍以上
18年度まで	1.10倍以上	1.20倍以上	1.30倍以上

その結果、例えば近畿圏の立命館は合格者が15年度の30,848人から18年度の24,995人へと5,853人減少（15年度比19.0%減少）、首都圏の早稲田は15年度の18,281人から18年度の14,532人へと3,749人減少（20.5%減）。大都市の有名大学は思いのほか狭き門になってしまいました。皆さんの周りでも、ほぼ受かると思われていた生徒がダメだったというケースがいくつかあったのではないのでしょうか。

ところで19年度以降、さらなる厳格化が予定されていたこの措置も、18年度限りでいったん見送られることになりました（9月11日付文科省・私学振興財団「平成31年度以降の定員管理に係る私立大学等経常費補助金の取扱について（通知）」）。十二分に成果が出たというのが理由のようです。

とはいっても、こうした有名大学の合格者数が今年度より増えるわけではありません。さらにいえば、センター志願者数が増えれば、当然こうした大学への志願者も増えるでしょうから、来年度は一層激戦になると予想しておいた方がよいでしょう。受験校をアドバイスするさいには注意されるようお勧めしておきたいと思います。